

1. 記述式の導入趣旨

- 高大接続改革において、大学入学者選抜改革は、高等学校教育と大学教育の双方の改革充実に資するものとなることが重要。
- 特に大学入学者選抜においては、高等学校学習指導要領が、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むため、言語活動(例：説明、論述、討論等)を重視していることを考慮する必要。
初年次教育の効果的な実施など大学教育改革にも寄与。
- 共通テストと個別選抜の全体を通じ、各々の特質を踏まえつつ、言語活動を通じて身に付いた資質・能力を的確に評価することが重要。

<共通テスト>

- 高大接続改革を国立・公立・私立を通じて推進するため、各大学の参画の下、約56万人(大学志願者の約8割)が志願する共通テストにおいて、国語総合における言語活動の成果を適確に評価。特に、記述式を導入し、考えを形成し表現する能力などを評価することにより、高等学校における能動的な学習を促進。

<個別選抜>

- 高大接続システム改革会議の「最終報告」を踏まえ、各大学の個別選抜において、共通テストの積極的な活用を図るとともに、作問の改善や小論文等の導入などが重要。

2. 共通テストの記述式について(調整案)

- 各大学が共通テストの記述式の採点を行う案は、限られた期間の中で実施でき、作問内容の柔軟な設定が可能となるなどの点で優れた選択肢。
- 一方、上記1.の趣旨を実現するためには、大学の負担・体制や私立大学の入試日程、個別選抜との関係等も考慮しつつ、多くの大学が共通テストの記述式を活用できる選択肢も用意する必要。

パターン1:センターが形式面を確認、各大学が採点

- センターが形式面(字数・引用等)を確認するとともに、各大学に答案・採点基準と併せ提供。各大学の判断で採点・活用。

パターン2:センターが段階別表示

- センターが段階別表示まで行い、各大学に答案と併せ提供。各大学で確認・活用。

※実現可能性について、フィージビリティ検証等を通じて見極めていく。

○ 新テストの実施方針で左記の取扱いを提示

○ 共通テストの記述式の活用を促進
(最終的には各大学の判断)

※平成32年度以降、作題や採点の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。

※平成36年度以降は、平成32年度からの実施状況やC B T等の技術開発の状況等を踏まえつつ、更なる改善を図る。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ案②

		パターン1	パターン2	
		○センターが形式面を確認、各大学が採点	○センターが段階別表示	
1. 問題の種類(主なもの)		○本文の内容を基に考えを文章化する問題 (より深く能力を問う問題)	○本文の内容を基に考えを文章化する問題 (基盤的な能力を問う問題)	
内容面	2. 評価すべき能力の測定 解答させる内容(問題の例)と資質・能力、出題型式との関係について(たつき台)	○テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題だけでなく、それによって得られた情報を編集・操作して解答する問題 ※特に、「論理(情報と情報の関係性)の吟味・構築」や「情報を編集・操作する力」の評価を重視 (例) ・テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり関連づけたりして論じる。 ・複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論ずる。		
	3. 採点可能性	素材選定の工夫	○論理的な内容を題材にした説明、論説等 ○新聞記事・社説、会議等の記録、実務的な文章(取扱説明書、報告書、提案書等)、法律の条文等 ○統計資料(図表・グラフ) (例) ・問題イメージ例(交通事故問2:80~100字) ・国立大学の問題(例:信州大学法経学部)	
		出題・解答のパターンの工夫	○論理的な内容を題材にした説明、論説等 ○新聞記事・社説、会議等の記録、実務的な文章(取扱説明書、報告書、提案書等)、法律の条文等 ○統計資料(図表・グラフ) (例) ・問題イメージ例(交通事故問1:40字) ・法科大学院適性試験の問題 (例:文章から地層の年代を読み取る問題)	
		採点者との関係	○大学向けの採点基準(内容面)の提供 ○国語の専門家以外の者(例:理系の教員、高校教員等)でも採点可能な内容	○民間事業者でも採点可能な内容
	4. 識別力	○中～高難易度	○中難易度	
5. 文字数・問題数	○上記の点や大学の負担を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。パターン2より文字数の多い問題(例えば、80~100字程度の問題1問)を検討。	○上記の点を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。短文記述式の問題(例えば、80字以下程度の問題)を検討(40字程度の問題を2問出題することも検討)。		
<p>※平成32年度以降、作題や採点の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。 ※平成36年度以降は、平成32年度からの実施状況やCBT等の技術開発の状況等を踏まえつつ、更なる改善を図る。</p>				

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ案③

		パターン1	パターン2
		○センターが形式面を確認、各大学が採点	○センターが段階別表示
実施 方法 面	6. 出題方法	マークシート式の設問と一体的な問題構成を検討	マークシート式の設問と一体的な問題構成を検討
	7. 試験時間	現行80分の試験時間の延長も検討	現行80分の試験時間の延長も検討
	8. 実施時期	現行の「1月13日以降の最初の土日」の設定について、前倒しの可能性を検討。 ※受験生側の状況や、年末年始の輸送、大学でのテスト問題の保管体制等を踏まえながら検討	
	9. センターの処理期間等	20日程度(民間事業者を活用) ※希望する大学には、早期のデータ提供を検討	20日程度(民間事業者を活用)
	10. センターからの提供データ	○画像データ化した答案 ○センターの確認基準(形式面) ○大学向けの採点基準(内容面) ○形式面の確認データ	○画像データ化した答案 ○センターの採点基準 ○段階別表示のデータ
	11. 提供開始時期	現行の「私立1月31日」「国公立2月2日」の設定について、数日後ろ倒しの可能性を検討。 ※希望する大学には、早期のデータ提供を検討 ※マークシート式の結果については現行通り	現行の「私立1月31日」「国公立2月2日」の設定について、数日後ろ倒しの可能性を検討。 ※マークシート式の結果については現行通り
	12. 大学での体制	大学教員(人文学以外の教員も含む)又は外部人材(高校の退職校長・教員など)で採点。	必要と判断する場合、大学教員等で確認

【国語】解答させる内容（問題の例）と資質・能力、出題形式との関係について（たたき台）

平成28年8月31日公表
「高大接続改革の進捗状況について」
(別添資料2 別紙3①)

	構造と内容の把握		精査・解釈		考えの形成・深化	
	知識・技能(略)				考えの形成・深化(情報の編集・操作) ➢考えを形成し深める力 ・情報を編集・操作する力	考えの形成・深化(知識・経験との統合) ➢考えを形成し深める力 ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力
(記述式の場合) テキストの内容を説明する問題(筆者の考えなど)	①テキストの部分的把握・理解	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える	構造や内容の把握して、テキストに挿入すべき語句を答える			
	※テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題	構造や内容の把握して、テキストの内容を答える	構造や内容の把握して、テキストの内容を答える			
	①選択式・短答式	テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える	テキストの中における、比喩表現の示す内容を答える		○テキストに書かれていること(構造や内容)を把握・理解する ○テキストの情報について答える	
		テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える	テキストの中における、抽象的表現や難しい表現の意味内容を答える			
		テキストの特定の場面における登場人物の心情、ある心情に基づく言動を答える	テキストの特定の場面における登場人物の心情、ある心情に基づく言動を答える			
(記述式の場合) 考えを文章化する問題	②テキストの全体の把握・理解		テキストにおける筆者の主張とその主張の理由・根拠を説明する		○テキストを全体的に把握・理解して、精査・解釈を行う ○テキストに示された情報と情報の関係性を吟味する等、精査・解釈して答える	
	※テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題		テキストに表現された事物について、目的・場面・文脈・状況等を説明する			
	②選択式・条件付記述式		テキストの会話や表現等に着目して、登場人物の心情の変化等を説明する			
			テキストを通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点について説明する		○テキストの全体的に把握・理解し、精査・解釈を踏まえて、情報を編集・操作して、考えを形成し深める ○テキストの情報を多角的・多面的に精査し構造化したり、構成・表現形式を評価したりする等の精査・解釈によって得られた情報を操作・編集し、テキストの内容を説明する	
(記述式の場合) 考えを文章化する問題	③情報の編集・操作		テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる	テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる		
	※テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題(テキストの内容を基に考えを文章化する問題)		テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる	テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる		
	③選択式・条件付記述式		テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりして論じる	テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりして論じる		○テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して、考えを形成し深める ○(テキストの情報を用いつつ、)自分の考えを論じる
			複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる	複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる		
(記述式の場合) 考えを文章化する問題	④自分の考えとの統合		テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる			テキストにおける筆者の主張を踏まえつつ、自分の考えを形成して論じる
	※テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題		テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる			テキストに示された図表等の情報を分析した上で、仮説を立てて、自分の考えを論じる
	④自由記述式・小論文		テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる			テキストの論旨を踏まえて、既有知識・経験を具体的に挙げながら、自分の考えを論じる
		テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる				テキストを踏まえて、テキストと自分自身との関わりについて考えたり、想像したりして、自分の考えを形成して論じる

※解答させる内容と資質・能力、出題形式との関係は、代表的な例を挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。